

2025年3月7日

**世界の人びとのための J I C A 基金活用事業
終了時活動報告書（2024 年度採択案件）**

1. 業務の概要	
(1) 案件名	学校における児童の眼の健康を守る事業
(2) 実施団体名	特定非営利活動法人ヒマラヤの星たち
(3) 実施期間	2025 年 1 月 15 日～2025 年 2 月 17 日
(4) 実施国	ネパール
(5) 活動地域	ゴルカ郡およびダディン郡
(6) 活動概要 ①活動の背景： ネパールでは、3 万人の子どもが失明し、20 万人を超えた弱視があり、屈折障害をもつ子どもが 100 万人を超えていると報告されている。 子どもの眼の疾病について、ネパールの専門医は衛生面等の生活環境のほかに妊娠中の飲酒・喫煙習慣等を指摘しているが、屈折異常(近視等)の原因のネパール固有の知見は得られていない。 学校においては、教員の中には屈折障害をもつ児童の視力に気付いて学習能力の発達の遅れを心配する向きもあるが、それに気付かず障害を能力の欠如として見過ごすものが見受けられることを教員のあいだから示唆された。 ②活動の目標： かかる背景のもと、学校において視力検査を実施して、視力矯正を必要とする児童に眼鏡を提供することによって、急峻な地形でインフラ整備が脆弱な生活上の危険を低減し、また教室内外で積極的に授業等に参加して学力向上の動機付けとなることを目的とするとともに、眼の健康に関する教育的とするものである。なお、学校はコミュニティの知的センターであり、眼の健康および関連する衛生環境に対する理解が住民に伝播されることを期待する。	

2. 業務実施結果

(1) 実施した内容

実施した内容は以下の通りである。なお、事業の位置図を添付-1に示す。

- a-1) ゴルカ市で 2023 年 11 月に眼鏡を供与した、ゴルカ郡パタンデビ校 1 人とイチャ校 8 人のフォローアップ視力検査とインタビューを実施した（インタビュー項目は添付 - 2 の通り）
- a-2) 上記のうちイチャ校 6 人に視力の低下が認められたため、カトマンズのティルガンガ眼科病院で検診し、うち 5 人の眼鏡を更新、1 人は視力が維持されており更新不要とされた
- b-1) ダディン郡サティヤワティ校で検査を実施、事前に全校 663 人のうち 213 人の事前視力検査が同校によって実施されていたが、事前視力検査の精度が低いと判断されたために、疑わしいもの 93 人を選び再度の視力検査と医師による細隙灯顕微鏡を用いた検診を実施した結果、11 人をティルガンガ眼科病院で検診することとした
- b-2) 同病院で検診した結果、11 人のうち 10 人に眼鏡を供与し。
- b-3) 同校で眼科医師による教員向け講義を実施し、38 人が参加した
- b-4) 眼鏡供与後に同校を再度訪問して全教員と眼鏡を供与した児童を対象にラップアップミーティングを実施した
- c-1) ダディン郡サルバス校で検査を実施、事前に同校によって全校 113 人のうち 103 人の事前視力検査が実施されており、このうち視力 6/9（約 0.7）以下のもの 18 人の視力検査と医師による細隙灯顕微鏡を用いた検診を実施した結果、8 人をティルガンガ眼科病院で検診することとした
- c-2) 同病院で検診した結果、8 人のうち 6 人に眼鏡を供与した
- c-3) 同校で眼科医師による教員向け講義を実施し、9 人が参加した
- c-4) 眼鏡供与後に同校を再度訪問して全教員と眼鏡を供与した児童を対象にラップアップミーティングを実施した

(2) 実施成果：

実施成果は以下の通りである。

- a-1) ゴルカ郡イチャ校の眼鏡供与児童の 8 人うち 5 人が 1 年 3 ヶ月後に近視が進んでいることが判明し、眼鏡を再調整した結果、継続検査の重要性が確認された
- a-2) 同郡パタンデビ校の 1 人は、同郡民間の眼の健康サービス団体が同校で実施した視力検査の結果、視力低下が進行していることが判明して、自身で眼鏡を更新したといい、眼の健康保持に留意していることがうかがわれた
- a-3) インタビューの結果、眼鏡を常にかけているものが 7 人、授業の時だけかけるものが 2 人であった。全員が教室で黒板の字がよく見えるようになり楽しみを感じているとの回答があったが、教員や親からは特段の反応がなかったことが判明した。なお、学校での成績の動向に関しては不明との回答が大半であった。
- a-4) イチャ校の付き添い教員 N は、前回の学校での検診を主導し、カトマンズでの検診にも同行した。同教員は、本邦 NPO 法人が実施した女性教員養成課程の卒業生であり、弊法人およびその前身組織が上記課程での授業および卒業生対象のフォローアップ研修に医師を派遣して眼の健康に関する講義を実施しているところ、教員の役割をよく理解しており、この度

も視力検査表を持ち帰らせて、年1回の検査と記録の保存、低視力児童のケアを指示しおいた

- a-5) パタンデビ校の前回検査に参加した教員 S も上記教員養成課程の卒業生であるところ、弊法人の活動の趣旨をよく理解しており、N と同様に電話にて指示しおいた
- b-1) ダディン郡サティヤワティ校は首都カトマンズからバスで 3 時間の国道の対岸に位置しており、眼疾病を得た児童は自主的にカトマンズの眼科病院で治療を受けている。一方で、近視についての関心が払われていない。10 人の矯正治療では斜視や不同視性の疾患（2 人）のほかは近視矯正で矯正視力 1.0 を回復しており、早い時期の治療が有効である
- b-3) 教員対象の講義は、講義後の熱心な質疑応答から教員の関心の高さがうかがえた
- b-4) ラップアップミーティングを眼鏡供与の児童全員と全教師出席のもとに実施した。児童全員から授業が楽しくなったとの意見があった。一方で、教員からは積極的な意見表明はなかった（質問項目は添付-3）
- c-1) ダディン郡サルバス校は、同郡の山中の貧困地帯に位置しており、車道も近年開通した。事前に全校児童の視力検査を済ませており、校長の指導力がうかがわれた。
- c-2) 眼鏡を供与した 6 人のうち 2 人が不同視性弱視と診断されて眼鏡による矯正を続けるよう指示されたほかは眼鏡によって視力を 1.0 に矯正した
- c-3) 教員対象の講義は、講義後の熱心な質疑応答から教員の関心の高さがうかがえた
- c-4) ラップアップミーティングを眼鏡供与の児童全員と全教師出席のもとに実施した。児童全員から授業が楽しくなったとの意見があった。一方で、教員からは来年も再度同じプログラムを実施してほしいとの要望が出た
- d-1) 本事業において眼科医療を総括するスーパーバイザーにティルガンガ眼科病院小児眼科主任医師であるスリジャナ・アディカリを任命したことによって、同病院の小児眼科がシステムティックに機能し、また同医師の直接診断によって正確な診断を得ることができた
- d-2) 学校における検診には、ダディン病院眼科医師バワナ・カナルが参加して、スクリーニングの学校側の信頼と納得を得ることができた
- d-3) 各学校との調整にはカウンターパートであるネパール NGO の代表クリシュナ・カティワダが遺漏なく進め、また弊法人および前身組織において同種の事業に参加したパサン・ラマとマンジュ・ドジュが経験を生かして限られた時間で学校における準備・進行及び病院における医師・スタッフとの連絡を遅滞なく実施した
- d-4) 本事業において所期の目的を達することができたのは、上記要員の配置と各々の能力が十分に発揮されたことが主たる要因と思われる
- e-1) ティルガンガ眼科病院における診断および治療は添付 - 4 の通りである

(3) 得られた教訓など：

- a-1) 本事業は実施面においては弊法人がこれまで行ってきたものであるが、今般事業においては成果の「みえる化」を試みた。その試みが、フォローアップ検診時のインタビューであり、ラップアップミーティング時のアンケートである
- a-2) フォローアップ検診時のインタビューは、質問設定の巧緻の問題と思われるが、期待していた回答が得られなかった
- a-3) ラップアップミーティング時のアンケートは、教員の都合で時間に制約があったために、個々の意見を聴取することができず、初期の想定の結果を得ることができなかった
- b-1) ダディン郡 2 校においては前年に郡保健事務所による全校児童の視力検査が実施された
- b-2) 両校とも視力検査結果の記録の保管がなかった
- b-3) ネパールにおいては学校保健が緒に着いたばかりで、教員が学校保健に関与する文化が醸成されておらず、「保健は自分の仕事でない」との意識が一般的である印象を受けた
- b-4) 教員向けの講義の受け止めについても、個人的な一般論、知識としての興味と思われ、教育制度の根源的変革を期待せざるを得ない
- b-5) ネパールの組織文化はその長に権限が集中する傾向にあるところ、学校における保健の定着は校長の意思次第といえる。また、当方の提案も同調はするもののその場限りとなることがままある。「学校管理委員会」(PTA に類似した機能をもつ組織) を参画させることも検討に値すると思われる

(4) 今後の活動・フォローアップの方針：

- a-1) 若年者の屈折障害（近視等）の進行に鑑み、今後とも 1 年後のフォローアップ検診を行うことを基本方針とするが、今般眼鏡の供与を実施したダディン郡 2 校については 2026 年 11 月に予定しており、各校にも通知してある
- b-1) 次年度の活動は 2025 年 11 月に首都圏の東隣のカブレ郡 2 校で実施する予定である。ネパールのカウンターパートは同地で長年活動しているネパール NGO とする
- c-1) 本邦 NPO 法人の主催する女性教員養成事業の卒業生で現役教員を対象としたフォローアップ研修に、わが方事業に参加するネパール人眼科医師を派遣して教員向けの講義・実務研修を実施する

3. その他(エピソード・感想・写真など)

(1) 活動中のエピソード・感想など

地方に住む子供たちの中には、バスに乗るのも初めて、カトマンズという大都会を見るのも初めてというものも珍しくない。ティルガンガ眼科病院はヒンズー教の大巡礼地であるパシュパティナート寺院に隣接している。みんなでお参りに行く。村に帰れば自慢話もできるだろう。カトマンズ国際空港にも近い。こんな大きな飛行機が空を飛ぶ？クラスメートには大威張りができる。眼鏡ばかりでなく、大都会を見て何かを村に持ち帰る、そんな子どもたちの感性をはぐくみたいとも願っている。

教員にも「新しい先生像」を期待している。外国の NGO が養成した若い先生たちは、新しいスタイルの教育をよく思わないオールド・ジェネレーションとの摩擦と葛藤しながら、少しずつではあるが村の学校を変えている。正規のカリキュラムでない美術や音楽、体育を自分のクラスの子どもたちに教えている。わたしたちはそんな先生たちを応援している。

教員たちに年 1 回の視力検査の実施を督励し、子どもたちの眼の障害を早期に見つけて対処することが私たちの活動の本旨であることに変わりはない。

(2) 活動の写真



フォローアップ検査でのインタビュー



学校における医師の検診



眼鏡の調整（ティルガンガ眼科医院）



眼の障害検診（ティルガンガ眼科医院）



病院内眼鏡ショップにてフレーム選び



医師による教師向け講義

(3) JICA 基金活用事業を実施したことで団体の成長につながった点・良かった点

多くの事業において、成果を顕示することが求められるが、弊法人やその前身組織においては必ずしも明確ではなかったと思われる。今般の事業実施に際して特段意識した点は成果の「みえる化」であった。結果は必ずしも満足のいくものではなかったが、成果に至るアプローチには改善が見られたし、結果を意識した実施方法を試みたことは今後の事業の質を高めることとなろう。さらに受益者と評価を共有するような方策をとれるように改善したい。

以上